

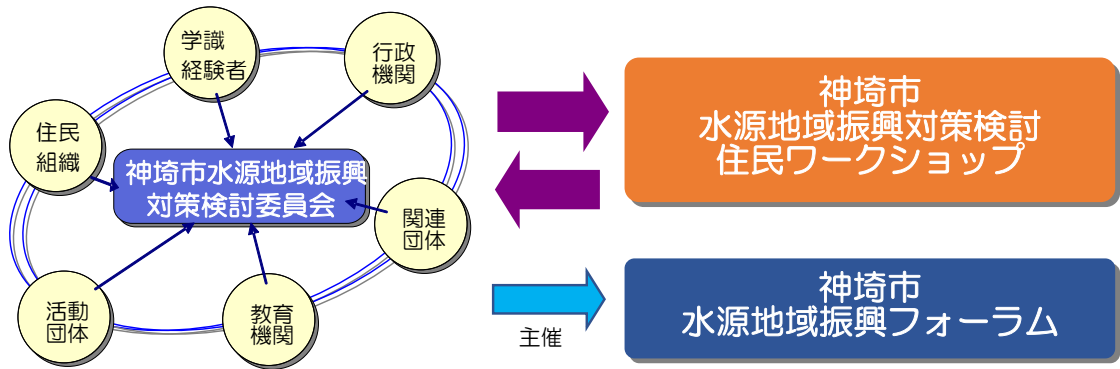
神崎市水源地域振興対策検討委員会 委員会だより

神崎市水源地域振興 “計画” と “委員会” について

市民の皆様を水害から守る城原川ダムの建設に伴い、その周辺地域の生産機能及び生活環境などが著しい影響を受けることが考えられます。そのため、本市では、これらの影響を緩和し、城原川ダム周辺地域及び上流域の振興を図ることを目的に、令和元年から「神崎市水源地域振興計画」の策定を進めてきました。

本計画の策定にあたっては、行政機関、学識者、住民組織、活動団体、教育機関、関連団体の代表者で組織される神崎市水源地域振興対策検討委員会（委員長 五十嵐勉 佐賀大学全学教育機構教授）において、次に掲げる事項を中心に協議及び検討を進めてきました。これらを踏まえて、令和5年3月に神崎市水源地域振興計画（案）としてとりまとめを行いました。

- (1) 基本構想に関すること
- (2) 振興計画に関すること
- (3) 城原川ダムに係る水源地域振興に関する基本構想及び振興計画の策定に関し、必要な事項に関すること



◆神崎市水源地域振興対策検討委員会名簿

	団体名（職名）	人数
委員	学識経験を有する者	2
	市議会議員	1
	城原川ダムに関わる住民団体を代表する者	3
	区長会を代表する者	3
	神崎市商工会を代表する者	1
	J Aさが神埼地区女性部脊振支部を代表する者	1
	脊振育友会を代表する者	1
	神崎市観光協会を代表する者	1
	高取山公園農産物出荷部会を代表する者	1
	まちづくり団体を代表する者	3
	国土交通省 武雄河川事務所長	1
	佐賀県 県土整備部 城原川ダム等対策室長	1
	産業建設部長	1
	産業建設部 農政水産担当理事	1
	総務企画部 企画調整担当理事	1
	脊振支所長	1
	公募により選出する者	2
※年度により若干の人数の増減あり	計 25	
事務局	産業建設部	1
	産業建設部ダム対策課	3
	計	4



<神崎市水源地域振興対策検討委員会 事務局>

神崎市 産業建設部 ダム対策課 ダム対策係



〒842-8601

佐賀県神崎市神埼町鶴3542番地1

TEL：0952-37-0103（直通）

FAX：0952-52-6549

◆ 検討経過

■第1回検討委員会

日 程	令和元年11月11日(月)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)委嘱状の交付・趣旨説明 (2)城原川ダム事業関連地域振興計画の趣旨 (3)城原川ダム事業の経緯、周辺の地域振興 (4)住民アンケートの報告 (5)計画策定に向けた実施スケジュール、WS計画

第1回ワークショップ
令和2年1月24日(金)

第2回ワークショップ
令和2年2月14日(金)

◆先例地視察

日 程	令和元年12月8日(日)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)先例地視察(鹿児島市西之谷ダム) (2)周辺施設に対するヒアリング等

■第2回検討委員会

日 程	令和2年7月29日(水)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)地域の課題整理 (2)地域の将来像の検討 (3)ロードマップ(案)の検討 (4)今後のスケジュール

第3回
ワークショップ
令和2年
10月2日(金)

◆神崎市水源地域振興フォーラム

日 程	令和2年12月20日(日)
会 場	中央公民館講堂
メンバー	有識者、関係機関、地域づくり団体、行政等
内 容	(1)基調講演(NPO法人ひろしまね 安藤氏) (2)事例報告会 ※地域外の団体の活動事例紹介(3団体) (3)意見交換会(パネルディスカッション) ※水源地域における地域活性化についての意見交換

■第3回検討委員会

日 程	令和3年1月15日(金)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)ワークショップの実施報告 (2)水源地域の将来像の検討 (3)ロードマップ(案)の策定

■第4回検討委員会

日 程	令和3年3月16日(火)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)ワークショップの実施報告 (2)推進体制の設定 (3)神崎市水源地域振興計画(基本構想 素案)の検討 (4)今後のスケジュール



■第5回検討委員会

日 程	令和3年11月8日(月)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)令和2年度までの検討結果 (2)神崎市水源地域振興計画(素案)策定までのスケジュール (3)神崎市水源地域振興計画(素案)の目次構成 (4)城原川ダム事業

■第6回検討委員会

日 程	令和4年11月11日(金)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)副委員長の選任 (2)地域の将来像と基本方針 (3)基本方針にかかる具体的施策の検討 (4)具体的施策の推進体制 (5)今後のスケジュール

第4回
ワークショップ
令和4年
12月2日(金)



■第7回検討委員会

日 程	令和4年12月26日(金)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)第6回検討委員会の議事録の確認 (2)第4回住民ワークショップの実施報告 (3)検討委員会とワークショップでの意見を踏まえた水源地域振興計画(素案) (4)新たな推進体制と具体的施策の進め方

■第8回検討委員会

日 程	令和5年2月24日(金)
メンバー	有識者、関係機関、行政等
内 容	(1)第7回検討委員会の議事録の確認 (2)計画素案に対するパブリックコメント結果 (3)神崎市水源地域振興計画(案) (4)推進体制(案) (5)今後のスケジュール



第1回

開催日時	令和元年11月11日(月) 9:00~11:00	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	24名
	事務局	5名
	傍聴者	なし



【主な検討内容】

- ・委員会設置要綱について
- ・城原川ダム事業関連地域振興計画について
- ・城原川ダム事業の経緯及び地域振興に関する計画・取り組みについて

【意見要約の結果】

- ・若者が積極的に参加できるような仕組みを市で検討してほしい。
- ・区長を通じての周知が形式的にならないよう、若者が自ら発言でき、情報を入手できる場として、ワークショップが機能してほしい。
- ・ダムに最も関心があるのは上流域(脊振町)の住民であるため、上流域のことも考えて欲しい。
- ・水源地域振興計画の策定にあたっては、上流域・水没地域・下流域の全域において、ダムが建設されて良かったと思えるような計画にして欲しい。
- ・水特法に関わらず、水源地域の活性化について考えていくべきだと思う。
- ・ワークショップを実施する際には、地域の課題を整理してほしい。
- ・学校が存続できるようなまちづくりを進めていきたい。
- ・今後は、区長会の中で、委員会での様々な議論内容や計画を説明し、区民の意見を反映できるように区長会として進めていきたい。

第2回

開催日時	令和2年7月29日(水) 10:00~12:00	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	24名
	事務局	6名
	傍聴者	2名



【主な検討内容】

- ・水源地域の課題整理について
- ・地域の将来像について

【意見要約の結果】

- ・今後、城原川ダムも貯水池内の管理体制をきちんと行っていくということをまずはお願いしたい。
- ・地域住民の力を借りて、空き家を何とかするような対策がとれないか。
- ・地元にいると当たり前となり、外部の目がないと気づかない魅力がある。最近、若者が移住し、地元でパンを作ったり、陶芸をしたりしている。そういう方にも意見を聞いてほしい。
- ・行政で何らか力を入れてもらい、住民が地域にとどまるような方策を考えてほしい。今後、そういうことも踏まえながら、検討委員会の中で意見を聞いて、自身の組織の中でも話をしていきたい。

第3回



開催日時	令和3年1月15日(金) 15:00~16:40	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	22名
	事務局	6名
	傍聴者	2名

【主な検討内容】

- ・水源地域の将来像の検討について
- ・ロードマップ(案)の策定について

【意見要約の結果】

- ・防災・災害の関連で、ダム整備と土砂災害特別警戒区域の二つの問題で悩んでいる。安心・安全な地域に移転できる方向性を示してほしい。
- ・将来の方針案が掲げられているが、振興策を将来にわたり誰がどういう形で実施するかを考えるべきである。
- ・基本的かつ将来的な組織づくりを方針の一つに入れてほしい。
- ・過疎地では、子どもの教育が一番心配であるが、その点は盛り込まれているか。
- ・拠点づくりを入れてほしい。千代田、神埼、脊振の人たちを含め、神崎市全体で考える脊振の拠点づくりが必要である。
- ・主体性を持った拠点を行政が公的に整備することが必要である。
- ・拠点を整備してから活用方法を考えるのでは、拠点は上手く機能しない。考える順序が重要である。

第4回



開催日時	令和3年3月16日(火) 15:00~17:00	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	24名
	事務局	7名
	傍聴者	1名

【主な検討内容】

- ・地域の将来像とロードマップ(案)について
- ・推進体制について
- ・神崎市水源地域振興計画(基本構想 素案)について

【意見要約の結果】

- ・情報発信は、住む人がある程度関わって、協力する必要がある。
- ・計画策定後において、一番心配なのは、ダムが完成するまで何もやらないことである。
- ・基本方針は共通まで含めると六つあるが、今から何か始めるには、そこに参加したいと思える仕掛けや競争原理が必要である。
- ・伽羅柿は簡単にブランド化できるようなものではないため、普通の柿でとどめた方が良いと思う。
- ・空き家対策について、募集する時点で区長と連携を取り、地域内の取組に納得した上で住んでもらった方が良い。
- ・岩政ハッピーサロンが好評であるため、付替え道路ができた際に新たな直売所を開設したい。
- ・地域おこしを行う際は、社会教育団体や社会スポーツ団体などが参画した方が良い。

第5回

開催日時	令和3年11月8日(月) 13:00~14:20	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	20名
	事務局	5名
	傍聴者	2名



【主な検討内容】

- ・令和2年度までの検討結果について
- ・神崎市水源地域振興計画(素案)策定までのスケジュールについて
- ・神崎市水源地域振興計画(素案)の目次構成について
- ・城原川ダム事業について

【意見要約の結果】

- ・策定した計画を推進するための、自立かつ持続可能な推進体制を作る必要がある。
- ・農・特産品について、2次加工・3次加工・学校への供給などの利活用があれば良い。
- ・主伐材の経済的な利益に繋がる循環が必要であり、湛水区域の利活用についても考えていきたい。
- ・基本方針についてもSDGsを落とし込んだ方が良いのではないかと。
- ・計画の内容や項目によっては、部署間の連携の調整を検討していく。
- ・他地域の事例について、本委員会で情報提供したいと考えている。次年度、他地域への視察の検討も必要ではないかと感じている。
- ・流水型ダムにおいて、水源地域活性化や振興計画を検討することは、全国初の事例かもしれない。今後、流水型ダムが他地域で建設される際に、私達の取組みが参考にされるかもしれない、本委員会は大変重要な役割を持っていると思う。

第6回

開催日時	令和4年11月11日(金) 15:00~16:45	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	22名
	事務局	5名
	傍聴者	なし



【主な検討内容】

- ・地域の将来像と基本方針について
- ・基本方針にかかる具体的施策の検討について
- ・具体的施策の推進体制について

【意見要約の結果】

- ・岩屋～広滝にかけての桜並木を充実させて観光ルートとして位置づけたい。
- ・木炭、竹炭、竹細工、竹チップなどにより、出品物の品目拡大と高齢者のいきがづくりができれば。
- ・空き家バンクへの登録等を事業として取り組めば、空き家の利活用の実現性が高まると思う。
- ・城原川ダムの上流域には公園や球技場を作り、地域活性化を図れるのではないかと考えている。
- ・将来のダム整備を前提に考えるよりも、今すぐできることを事業化して始めるべきと思う。
- ・住民説明会において具体的な回答が得られないケースが多かった。住民が理解できるように詳しい説明をお願いしたい。

第7回



開催日時	令和4年12月26日(月) 15:00~16:30	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	21名
	事務局	5名
	傍聴者	なし

【主な検討内容】

- ・第6回神崎市水源地域振興対策検討委員会の議事録の確認について
- ・第4回住民ワークショップの実施報告について
- ・検討委員会とワークショップでの意見を踏まえた水源地域振興計画(素案)について
- ・新たな推進体制と具体的施策の進め方について

【意見要約の結果】

- ・「水源地域」というワードは一般市民に馴染みがあるのか。サブタイトルを付けてはどうか。
- ・地域振興を考える際には、社会人だけでなく、大学生などの学生を入れてほしい。
- ・高等学校では、探求型の授業が必須となっており、地域の課題解決の実習を行っている。市から高校に体験学習のテーマを提案するなど、積極的なアプローチが必要である。
- ・土砂災害警戒区域に指定されている場所を土捨場とすることは問題ないか。土捨場等の造成や跡地利用については、防災上十分な配慮をしてほしい。
- ・水没地区だけでなく、ダム周辺地域にももっと情報を発信していくべきだと感じている。
- ・ダムによる移転後も、脊振の方々と一緒に地域振興に関わっていきたいと考えている。

第8回



開催日時	令和5年2月24日(金) 15:00~16:00	
開催場所	脊振交流センター大会議室	
出席者	委員	22名
	事務局	5名
	傍聴者	なし

【主な検討内容】

- ・第7回検討委員会の議事録の確認について
- ・計画素案に対するパブリックコメント結果について
- ・神崎市水源地域振興計画(案)について
- ・次年度以降の推進体制(案)と参加団体・個人の候補について

【意見要約の結果】

- ・周辺自治体との連携によって、以前あったペンタ共和国のようなものは作れないか。
- ・各団体の呼称について再整理してほしい(NPO, CSO, 関連団体など)。
- ・1つの団体の中にも様々な専門性を有するメンバーがいるので、専門性に応じて1団体から複数の作業部会に参加できるようにしてほしい。
- ・農・特産品に関する作業部会に、実際に営農している生産者を加えられるか検討してほしい。
- ・本計画のキャッチフレーズ(サブタイトル)について、3案の中から「つなぐ 城原川プロジェクト」が暫定候補として選出された。
- ・今後の推進会議(仮称)は、まさに市民連携の場であり、一丸となって取り組んでいただきたい。

住民ワークショップ①

◆神崎市水源地域振興対策検討“住民ワークショップ”について

神崎市水源地域振興計画の策定において、検討委員会が主催となり、地域住民の皆さんから様々な意見集約を図るために、「神崎市水源地域振興対策検討住民ワークショップ」を開催しています。

各回のテーマに即し、住民の皆さんで活発な意見交換を行っていただき、その結果を検討委員会にフィードバック（還元）し、計画を策定していきました。

◆開催スケジュール

回	開催日	場所	テーマ
第1回	令和2年 1月24日(金)	脊振支所 大会議室	① 城原川ダム周辺地域及び上流域の魅力・課題について ② 地域の現状と課題を踏まえ、魅力的な所にするための工夫や課題の解決方法について
第2回	令和2年 2月14日(金)	脊振支所 大会議室	① 地域の現状と課題を踏まえ、魅力的な所にするための工夫や課題の解決方法について(追加検討) ② 地域の将来像について ③ 将来像を実現させるための取組及び実施体制について
第3回	令和2年 10月2日(金)	脊振勤労 体育館	① 将来像を実現させるための取組及び実施体制について(追加検討) ② 地域づくりフォーラムの企画検討
第4回	令和4年 12月2日(金)	脊振支所 大会議室	① 検討委員会できりまとめた水源地域振興計画(素案)の説明 ② 同振興計画(素案)に関する意見交換と今後の推進体制について

◆実施方法

参加者が5つの班に分かれ、進行役（ファシリテーター）の進行の下、各回のテーマに基づいて意見交換を行う。出た意見は、付箋紙に記入し、それを模造紙に貼って、班内で意見を共有する。最後に、各班で出た意見を各班の発表者が全体に報告する。

図: 将来像を実現させるための取組及び実施体制について

住民ワークショップ②

◆開催結果

第1回および第2回ワークショップでは、城原川ダム周辺地域及び上流域の魅力・課題、また、地域を魅力的な所にするための工夫や課題の解決方法について、意見交換を行いました。

また、第3回ワークショップでは、将来像を実現させるための取組及び実施体制について、意見交換を行いました。第4回ワークショップでは、委員会できりまとめた水源地域振興計画（案）に関する説明と、それに基づく意見交換を行いました。また、策定した計画の今後の推進体制に関する意見交換を行いました。途中、コロナ禍に伴う中止等により期間が空いた時期もありましたが、地域の皆さんの積極的な参加により、多くの意見を振興計画に反映することができました。

<以下、ワークショップにおいて意見交換した内容の一部抜粋>

ワークショップの様子	地域の魅力を活用するための工夫	地域の課題を解決するための工夫	将来像を実現させるための取組及び実施体制
A班 	<ul style="list-style-type: none"> 水力発電の活用 歴史資源の活かし方を学ぶ勉強会の開催 道路網を活かした歴史の活かし方のネットワーク対策 	<ul style="list-style-type: none"> 公共交通等の情報共有 集落の情報の共有 コミュニティの形成 移住者の対策 情報不足による説明会の開催 上下流交流のつながり 	【水を使った観光・小水力】 住民・関係団体 ⇒歴史を活用した勉強会 ⇒原木しいたけの情報発信 各団体との連携 ⇒小水力発電・認可
B班 	<ul style="list-style-type: none"> 自然を活かし、かつ災害に強い地域づくり トンネル開通、組織強化(担い手)、発信力の強化、観光資源の充実、神崎市全体との共有 	<ul style="list-style-type: none"> 少子化の改善に向けた、特別学校の誘致 ダム周辺の宅地造成、芸術村 空き家の活用 	【豊かな自然】 住民・関係団体 ⇒若い人との共同(私有林の管理)間伐、手入 各団体との連携 ⇒地域コミュニティの維持
C班 	<ul style="list-style-type: none"> 観光客の集客 貸し農園、体験学習、溪流釣り その土地の自然の育成 昔遊びの提供 木チップ材を使った火力発電 廃材の活用 ひだまりパーク 	<ul style="list-style-type: none"> 街へのアクセス改善 水資源を活用する企業を誘致 静かな環境を活かしたリモートワークの環境整備(ITなど) 	【“人財”の確保】 住民・関係団体 ⇒若者が来る場の創出(指定管理者による若者向け企画・イベント等) 行政 ⇒定住希望者の受け入れ先確保
D班 	<ul style="list-style-type: none"> 森林の整備と環境保全 観光地の周知(PR) 広い道路の整備 地域おこし補助金 案内標識の充実 既存施設の再整備 	<ul style="list-style-type: none"> 雇用を増やす 道路整備 農業用水の確保 公共施設・宿泊施設の充実 有害鳥獣の繁栄阻止 	【家族と移住したくなる街】 住民・関係団体/各団体との連携 ⇒脊振のPR活動、SNS 行政 ⇒“自然”を推して若年層を呼び込むような対策
E班 	<ul style="list-style-type: none"> ダムの上に「夢の架け橋」を整備して観光地化 100円宅地を活用した移住者の募集 木造音楽ドームの整備 水車による水力発電(SDGs) アウトドア用品店と提携したキャンプ場の開設 	<ul style="list-style-type: none"> 集団移転地を地域内に計画 レトロなバスの運行 登山鉄道などの観光資源の創出 脊振にアクセスの良い南北の幹線道路の整備 高取山にダム直結のケーブルカーを設置 	【地元の魅力×新しい魅力】 住民・関係団体 ⇒地域おこし協力隊の卒業後の活躍を後押し 各団体との連携 ⇒移住者が地域になじめるかどうかお試し移住(シェアハウス)
講評 	<ul style="list-style-type: none"> 今回のワークショップでは、今後の検討委員会等で深く考えていける多くのテーマやアイデアを見出すことができた。 地域の魅力は、守り、磨き、活用していくことが必要である。 課題については、少しでも問題を緩和できるように検討を進め、水源地域振興計画をまとめていきたい。 「ウィズ・コロナ」の状況下で、ITをいかに活用して、地域を支えていくかを考える必要がある。 若い人たちの力をいかに呼び込むのか、脊振の応援団をつくっていかけるかが、重要になる。 		

神崎市水源地域振興フォーラム

◆開催概要

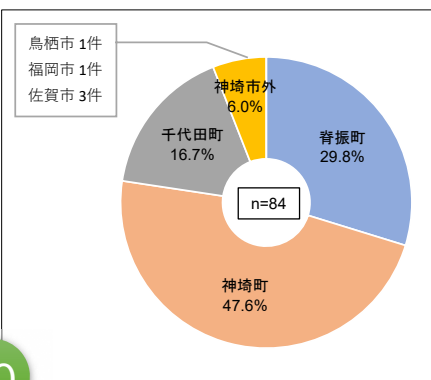
- *目的: 城原川ダム建設に伴う地域振興対策について、市民への情報発信及び城原川水源地域における地域活性化への機運を高め、水源地域振興計画の策定に反映することを目的に実施しました。
- *日時: 令和2年12月20日(日)14:00~16:40
- *会場: 神崎市中央公民館 講堂
- *主催/共催: 神崎市水源地域振興対策検討委員会/神崎市

◆開催内容

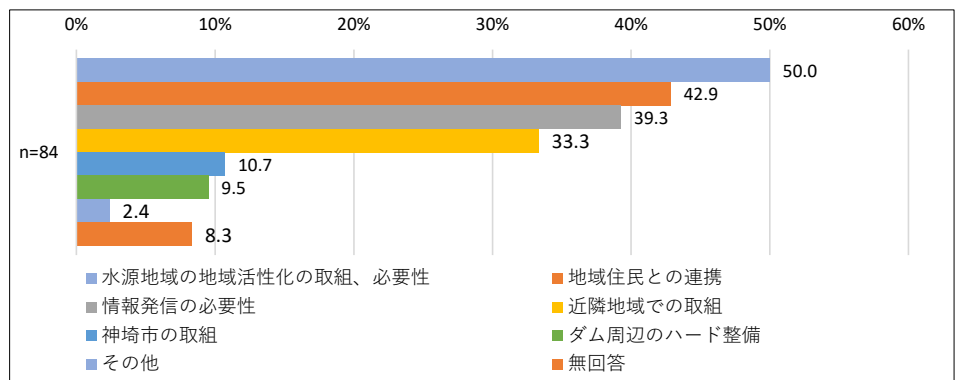
<p>基調講演</p> <p>特定非営利活動法人 ひろしまね 理事長 安藤周治</p>	<p>「水源地域における持続性のある地域活性化の実現 ～「ここで暮らし続けたい」の思いをつなぐ～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・持続可能な地域づくりとして、子どもたちに地域の良さをどう伝えていくか。 ・安心・安全な暮らしや生活環境を整えること。 ・暮らしを支える対話、仕事づくりが大事である。 ・お互いに褒め合い、認め合いながら地域づくりに関わることは、身近なまちづくりとして1番大事なことである。 	
<p>事例報告会①</p> <p>合同会社 東峰村ツーリズム協会 会長 小野豊徳</p>	<p>「東峰村の魅力伝える！～オーダーメイド観光の挑戦～」 道半ばの話しを聞いてください</p> <ul style="list-style-type: none"> ・村には素晴らしい観光資源があるものの、観光案内のできる仕組みが無かった。役場を早期退職して会社を立ち上げた。 ・村人と旅人の交流を深められる架け橋となり、感動を与えられる案内を提供することが狙いである。 	
<p>事例報告会②</p> <p>森の香 菖蒲ご膳 西 要子</p>	<p>「森の香 菖蒲ご膳の活動について～人と自然に支えられて～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・嘉瀬川ダム建設に伴う富士町振興計画ができ、その事業の1つとして、本事業が位置づけられた。 ・特産品の無い地域で考え出したのが地域名の「菖蒲」であり、雑草に活躍してもらうことを踏まえ「山野草、摘み草料理愛好会 菖蒲ご膳」を名付けた。 	
<p>事例報告会③</p> <p>一般社団法人 神水川公園協議会 理事 重田 秀己</p>	<p>「神水川パークゴルフ場の活動について～神水川に集う～」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ダム建設により、国が買収した土地の活用として、神水川パークゴルフ場が整備された。 ・通常はスタッフ11名で公園の維持管理を行っているが、応援部隊を出していただき協力を受けている。 	
<p>意見交換会(パネル ディスカッション)</p>	<p>テーマ1: 基調講演・事例報告会の補足質問 テーマ2: 都道府県や市町村境界を挟んでの連携 テーマ3: 会場からの質問</p>	

◆アンケート結果

【参加者の居住地】



【フォーラムに参加して理解が深まったこと】



先 例 地 視 察

◆開催概要

- *視察日時：令和元年12月8日(日) 13:00~15:00
- *視察地：西之谷ダム(鹿児島県鹿児島市)
- *視察次第：1. 開会挨拶(神崎市水源地域振興対策検討委員会 五十嵐委員長)
2. 西之谷ダム関係者挨拶(鹿児島県土木部河川課 福永技術補佐)
3. 西之谷ダム概要説明(鹿児島県土木部河川課 大山係長)
4. 意見交換
5. 閉会の挨拶(神崎市水源地域振興対策検討委員会 坂井副委員長)
- *視察参加者：委員：13名／事務局：5名／関係機関：3名
- *視察対応者：鹿児島県 土木部 河川課 2名

◆意見交換の内容

質問	回答
西之谷ダム建設の経緯、流水型ダムの運用状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・経緯：過去に風水害による被害を何度も受けてきた。特に平成5年と7年の洪水は家屋や道路が浸水する甚大な被害となった。 ・運用：常に水が常用洪水吐(穴)を常に水が流れている状態であり、ゲートの開閉といった人為的操作は必要ない。ただし、貯水池に23トン/秒の流量で水が流れ込んだ場合や大雨洪水警報が発令された場合には、管理者が観測・計測を行っている。また、非常用洪水吐を超えて水が流下する恐れが出てきた場合には、下流の住民や市町村へ通知している。
西之谷ダム建設に伴うダム周辺地域における振興対策の計画について	<ul style="list-style-type: none"> ・ダム上流域の住民における生活再建対策のため、同地域の生活環境の促進を目的に、地区住民から成る西之谷ダム対策委員会が発足した。年に10回の幹事会と2回の総会が開催されている(平成26年3月まで)。 ・振興対策として、計画段階から地元住民によるワークショップを実施し、住民の意見を踏まえて貯水池内の整備を検討した。
ダム湖内をビオトープとして整備している経緯や管理状況について	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池内の掘削により、人為的な改変をせざるを得ない状況から、西之谷地区の田園風景等、自然環境に影響を及ぼす可能性が出てきた。そのため、貯水エリアに樹木や草本が繁茂する可能性があるという流水型ダムの特徴を活かし、ダム建設による景観や自然環境に与える影響を少しでも回避しようとビオトープを整備してきた。 ・貯水エリアに湿地を整備し、木の繁茂を防ぎ、流木対策を行っている。
ダム建設により良くなった点、悪くなった点、反省点等について	<ul style="list-style-type: none"> ・良くなった点：下流域の浸水被害は発生していない。 ・悪くなった点：地元から人が減って寂しいという声が聞こえている。 ・ダム建設による環境への影響は特にならない。
ダム周辺の景観、施設等を検討した際の着眼点について	<ul style="list-style-type: none"> ・貯水池内の景観の検討における基本方針は、①里山風景の再生、②多様な生物の生息・生育、③人と生物がふれあう場の再生であり、自然の営みを視野に入れて、河川が本来有している生物の生息・育成・繁殖環境等に配慮している。 ・人が過度に手を入れないよう、以下の点で工夫している。 <ul style="list-style-type: none"> - 木の繁茂の防止等に作用する湿地の形成 - ダム上流の湛水域で魚類の産卵や稚魚の育成 - メダカ池の設置(環境教育の一環として鹿児島大学農学部の先生と協同) - 自然の力で川が再生するクリークの設置 - 川の浸食防止のため、流れを分散させる石組み工の設置 - 石を積んだ棚田の形成

◆視察の様子(写真)





神埼市水源地域振興対策検討委員会 事務局

神埼市 産業建設部 ダム対策課 ダム対策係

〒842-8601 神埼市神埼町鶴3542番地1

TEL : 0952-37-0103 (直通)

FAX : 0952-52-6549